

平成18年11月15日の津波騒動時における 児童の津波避難実態に関する調査報告書

平成19年1月
群馬大学 災害社会工学研究室

■平成18年11月15日の釜石市の状況■

- 20:15 千島列島を震源とするマグニチュード8.1の地震が発生(地震直後の情報はなし)
- 20:30 テレビ等で『オホーツク沿岸から静岡県沿岸まで、津波警報または津波注意報が発表された』ことが伝えられる
岩手県沿岸には、『津波注意報』が発表され、津波の第1波の到達予想時刻は21:40、予想される高さは0.5mと発表された
- 20:35 釜石市は沿岸の津波襲来危険地域に居住する7048世帯に対して、『避難指示』を発令し、35分と40分に屋外スピーカーで放送し、市内に広報車を走らせて、避難を呼びかける
- 21:57 釜石市に津波の第1波が到達、高さは0.1m
- 1:30 『津波注意報』と『避難指示』が解除される

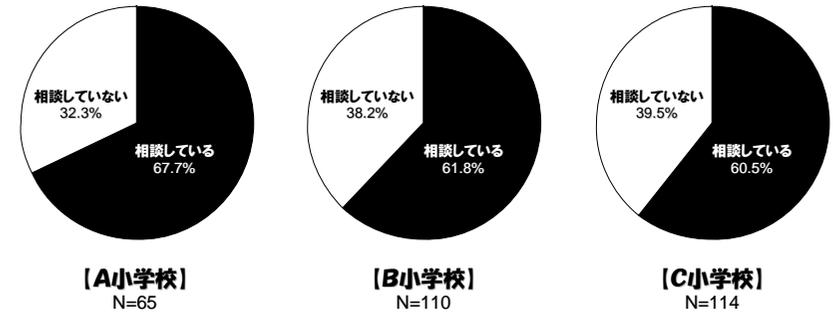
■調査概要■

- 実施方法 ホームルームの時間にアンケート票に記入してもらった
- 実施時期 平成18年12月上旬
- 対象 A小学校の4・5・6年生/B小学校の5・6年生/C小学校の4・5・6年生
- 回収 A小学校:71人中 65人から回収(回収率:87.2%)
B小学校:117人中111人から回収(回収率:94.9%)
C小学校:118人中114人から回収(回収率:96.6%)

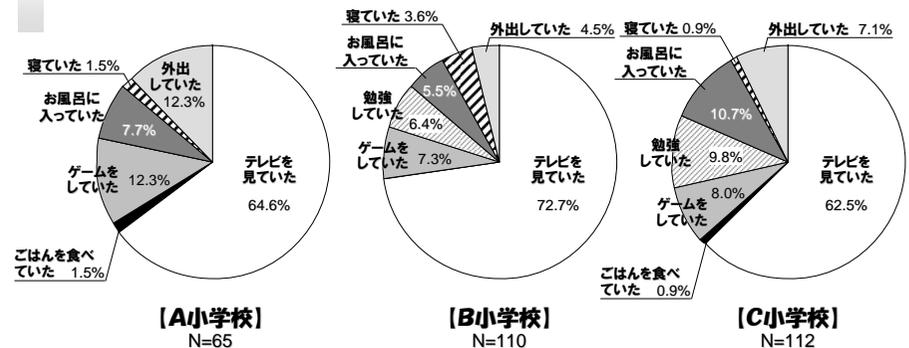
■調査結果より■

- 避難場所点検やマップづくりなどの津波防災教育を実施していたA小学校、B小学校の児童は津波防災教育を実施していなかったC小学校の児童よりも、家族に避難の呼びかけをしていた
- その一方で、家族から「避難しなくてもいい」、「津波は来ない」などと言われた児童の割合も高かった
- また、その理由として、「津波が小さいから」と言っている保護者が多く、『予想津波高50cm』という情報が避難を阻害していたものと推察される

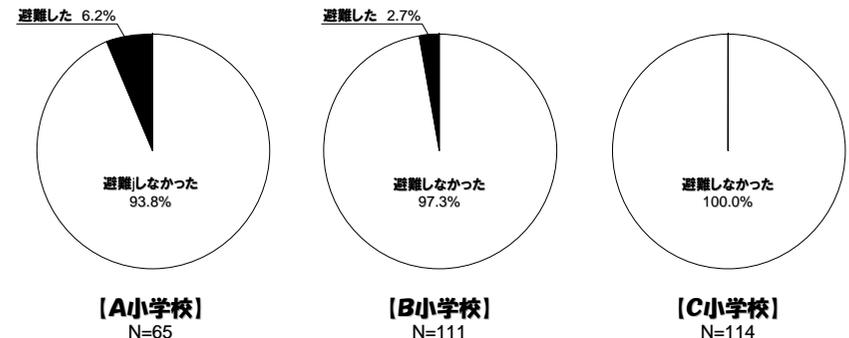
家族との津波が来たときの避難場所等の相談



平成18年11月15日20:30頃、何をしていたか?

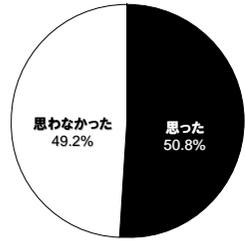


平成18年11月15日に避難したか?

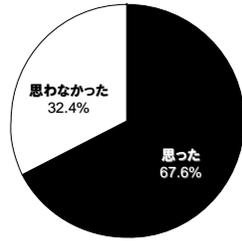


■避難をしなかった児童について

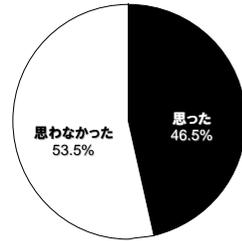
津波に関する情報を聞いたとき、「避難しなければいけない」と思ったか？



【A小学校】
N=61

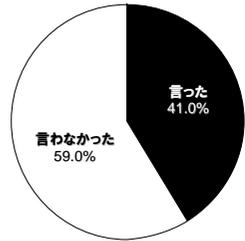


【B小学校】
N=108

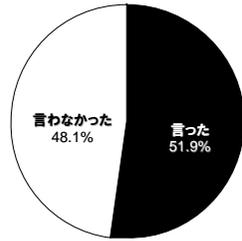


【C小学校】
N=114

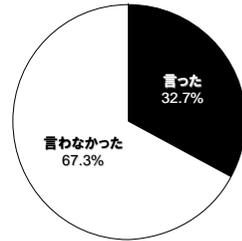
「避難しよう」と家族に言ったか？



【A小学校】
N=61



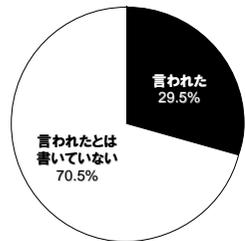
【B小学校】
N=108



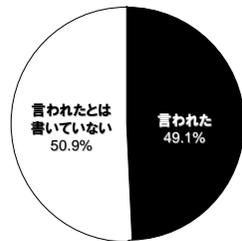
【C小学校】
N=113

家族から「避難しなくても大丈夫」「津波は来ない」などと言われた児童の割合

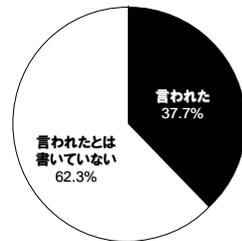
※フリーアンサーの記述内容を集計した結果



【A小学校】
N=61



【B小学校】
N=108



【C小学校】
N=114

■避難しなかった児童の家族とのやりとりの様子 (特に気になったフリーアンサー)

情報や周囲の状況に依存…

- お父さんが「もう少し情報を聞いてから行動しよう」と言った。
- ぼくは「避難しよう」と思ったけど、お母さんが「テレビの情報を見て決めよう」と言いました。
- “津波が来て10cmくらいだから大丈夫だ”と思っていた。お父さんは「もうちょっと様子を見よう」と言っていた。お母さんは外出していた。
- お母さんが「逃げる準備をしておいて」と言った。テレビをニュースにかえて、津波の情報をみんなで見ていた。おばあちゃんやおじいちゃんも逃げる準備をしていた。わたしが「逃げなくてもいいの？」と言ったら、お母さんが「もう少し様子を見てから」と言った。お父さんはまだ仕事をしていたので家にはいなかった。
- お母さんは、「いっぱい人が避難し始めたら避難しよう」と言っていた。お母さんが帰ってくるまでは、ガスを消して安全にしていた。

津波に関する間違った知識を伝承…

- お母さんが「(津波が来る前には)波が引くから、(今は引いていないので)絶対来ない」と言っていた。
- お父さんは「水が引いたら、避難しよう」と言った。私は一応暖かい服に着替えていた。私は心配していました。
- お母さんが「大丈夫だよ、前にもこんなのいっぱいあったから」と言っていた。私はすごくこわかった。
- 「避難勧告ではなくて避難指示だから大丈夫」と言っていた。「大丈夫なんだ」と思った。
- 「1回目(の放送)では津波はこっちまで来ない。次に(放送が)鳴ったら避難しないといけない」とお父さんが言っていた。
- 「本当に危険なら放送はもっと鳴るはずだし、それに家は高いほうだから大丈夫」とお母さんが言った。

「避難しよう」と家族に言った子どもが…

- みんなでご飯を食べていて、「津波が来るから逃げようよ」と言ったら、みんなにバカにされて津波防災学のことを言ったらもっとバカにされた。
- 「避難しよう」と言ったけど、怒られた。でも寝ると怒られ布団に入ったけど起きていた。
- お母さんに「逃げよう」と言ったら、「来るわけない、うるさい」と怒られた。それで逃げる準備を三人ですていたらまた怒られて、ベッド(二階)にいてずっとニュース(津波こと)を見ていた。お母さんはパソコン。お父さんは寝ていた。ずっと起きていたらテレビを消されて「もう寝ろ」と言われてまたまた怒られた。
- お母さんは仕事に行っていた。お父さんが寝ていたから、津波の事「早く逃げよう」と言ったら、お父さんは「浅いから大丈夫」と言っていた。何回もわたしは「だめ、逃げよう、逃げよう」と言っていたら怒られた。

■避難しなかった児童の家族とのやりとりの様子(全結果)

“避難しなければ”と思った	「避難しよう」と家族に言った	家族とのやりとりの様子
○	○	最初は逃げようとしたけど、おばあちゃんとじいちゃんが「 0.5mだから逃げなくてもいい 」と言ったので、逃げなかった。隣の家の人も「避難しよう」と言ったけど、「 津波が低いから逃げなくてもいい 」と言った。
○	○	わたしとおじいちゃんは逃げようとしたけど、他の人に「 来るとしても何十 cm だから大丈夫 」と言われた。22 時くらいまでテレビの下の方にてている津波がどこに来るかを表している地図をずっと見ていた。お父さんは北海道にいる親戚と連絡していた。
○	○	お父さんは「 高い津波が来ないから大丈夫 」と言って、お母さんは同じことを言った。ぼくは「 避難した方が良い 」と思った。
○	○	避難すると思っていたけど、みんなは普通にテレビを見ていた。「避難しなくていいの？」と聞いたら、「 いいよ、小さいから 」と言われた。
○	○	ぼくは「避難しなくていいの？」と言ったら、お父さんが「 津波が低いから大丈夫 」と言った。
○	○	ぼくは「避難しないの？」と言ったけど、父、母に「 50cm は防波堤を越えないから大丈夫だよ 」と言われて、避難しなかった。
○	○	お母さんはテレビの地震の情報を見ていた。だからわたしは「逃げよう」と言ったら「 50cm だから大丈夫 」と言われた。でもちよっと心配だった。
○	○	お母さんは仕事に行っていた。お父さんが寝ていたから、津波の事と「早く逃げよう」と言ったら、お父さんは「 浅いから大丈夫 」と言っていた。何回もわたしは「だめ、逃げよう、逃げよう」と言っていたら怒られた。
○	○	「 50cmだから大丈夫だから寝ろ 」とお父さんに言われた。
○	○	ぼくは避難勧告のときの音がこわかった。お父さんに「 40cm の津波 」と言われ、却下された。
○	○	お母さんは「 波の高さが低いので避難しなくてもよい 」と言っていた。私も「 避難しなくてもよい 」と思ったので、避難しなかった。
○	○	わたしはテレビを見ていて、地震がこわかったからコタツの中にもぐって、「避難しなくていいの？」と聞いたけど、「 山だからここまで来ないだろう 」と言われた。だから一人で避難食を用意していた。お母さんは食器を洗っていて、お父さんはテレビを見ていた。
○	○	「山に近いし、海からも離れているから、大丈夫だよ。でも、一応テレビ見よう」と言われた。
○	○	「本当に危険なら放送はもつとなるはずだし、それに家は高いまうだから大丈夫」とお母さんが言った。
○	○	お母さんが「海に近くないから避難しなくてもいい」と言っていました。おばあちゃんは「避難しよう」と言っていました。
○	○	おばあちゃんは「高いところだから避難しなくてもよい」と言っていた。
○	○	ぼくは「避難した方がいいよ」とおじちゃんに言ったけれど、おじちゃんは「この家は山の方だから避難しなくていいよ」と言いました。
○	○	わたしの家は日向なので、おじいちゃんとおばあちゃんは「日向に津波が来たら釜石市は全滅だから、絶対に日向には来ない！」と言われた。なので、わたしは“それもそうだな”と思った。サイレンが鳴った後はテレビで津波のことをやっている番組を見ていた。
○	○	“逃げよう”と思ったけど、お父さんが「 逃げなくていい 」と言ったから逃げなかった。「 津波も低かったから大丈夫だ 」と思った。
○	○	お父さんは「 大丈夫だ 」と言った。ぼくはお父さんの言葉で「 じゃ、大丈夫だなー 」と思った。お母さんは茶碗を洗っていた。
○	○	お母さんは「 避難しなくてもいい 」と言った。ぼくは「 避難しなくてもいいんだ 」と思った。

“避難しなければ”と思った	「避難しよう」と家族に言った	家族とのやりとりの様子
○	○	お父さんはまだ帰ってきていなくて、お母さんは「 避難しなくてもよい 」と言っていた。それから、ぼくも「 避難しなくてもよい 」と思って避難しなかった。それとヒマだったので、兄ちゃんとテレビゲームをしていた。
○	○	お母さんは「 津波は家まで来ない 」と言っていた。ぼくは「避難しよう」と思ったけど、「家まで来ない」と言われたので避難しなかった。
○	○	ぼくは「避難した方がいい」と思ったけど、母が「 大丈夫だよ 」と言ったので、家にいた。
○	○	おばあちゃんとお母さんは「 避難しなくていい 」と言っていた。お父さんは「釣りに行って、帰ってきたから良かった」と言っていた。わたしは「 50cmでも避難しよう 」と思った。けれど、みんな避難しなかった。
○	○	お父さんは「 ここには来ないべ 」と言っていたけど、お母さんは「 逃けた方がいいよ 」って言っていた。わたしも「逃けた方がいい」と思った。
○	○	お父さんが「 避難しなくても大丈夫だ 」と言っていました。ぼくは避難するために、必要な物をバッグに入れていました。おばあちゃんもおじいちゃんも避難するために、服などをバッグに入れていました。ぼくは「避難した方がいい」と思いました。
○	○	わたしはお母さんに「逃げよう」と言ったけど、お母さんは「 大丈夫だ 」と言っていた。わたしは「逃げなければならぬ」と思った。
○	○	私は「どうするの？」と言ったら、おじいちゃんが「 大丈夫 」と言いました。でも、わたしは「避難した方がいい」と思いました。
○	○	わたしは指示が出されたとき、少し心配になった。避難するのかもしれないや、家族は一向に動く気配がなかった。なので、わたしが「避難しなくていいの？」と聞くと、おじいちゃんが「 なーに、大丈夫だよ 」と言っていた。少し心配だったがしばらくして寝た。
○	○	テレビでバレーボールの試合を見ていたら、突然「避難するように」などとでてあせった。「避難しないの？」と聞いたが、「 大丈夫だから、しかも寒いね。避難しなくても大丈夫 。」とお姉ちゃんが言った。わたしは赤ちゃんを抱いていたのでちよっとこわくなりました。
○	○	わたしは心配だったけど、お母さんが「 大丈夫 」と言った。だけど、すごく心配だった。
○	○	ぼくはテレビを見ていて「津波が来たらどうしよう」と思ったら、お父さんが「 大丈夫だ 」と言ったので、ぼくは寝ました。このとき、お母さんとお兄ちゃんは二階で寝ていた。
○	○	お母さんは「 避難しなくていい 」と言った。お父さんは同じことを言った。ぼくはちよっと心配だった。
○	○	ぼくが「大丈夫？」と言ったら、お母さんが「 大丈夫 」と言ったので、テレビを見ていた。兄ちゃんも「大丈夫」だと言っていた。ぼくは少し心配した。
○	○	お母さんに「逃げよう」と言ったら、「 来るわけない、うるさい 」と怒られた。それで逃げる準備を三人でしていたらまた怒られて、ベッド(二階)にいてずっとニュース(津波こと)を見ていた。お母さんはパソコン。お父さんは寝ていた。ずっと起きていたらテレビを消されて「もう寝ろ」と言われてまたまた怒られた。
○	○	わたしは「避難しよう」と言って、座布団をかぶった。お父さんは「 大丈夫だ 」と言って、避難地図を見た。妹はテレビを見ながら「 えっ 」という顔をした。お母さんは家事をしながら「大丈夫だよ」と言った。
○	○	わたしが「避難しようよ」と言ったら、お父さんが「 大丈夫、津波なんか来ないから 」といった。お母さんはお皿を洗っていた。
○	○	お母さんとわたしは「逃げよう」と言って、逃げる準備をした。けれど、お父さんが「 大丈夫だから逃げなくていい 」と言ったので、 逃げなかったけど逃げるのをやめました 。
○	○	お母さんは私の服を用意していた。お父さんは「 大丈夫だ 」と言っていた。テレビをずっとかけっぱなしでニュースを見ていた。私は「どうしよう、どうしよう」と言っていた。おばあちゃんも「 大丈夫 」と言っていた。私は家が海のまん前なので、何度も窓から海を見ていた。

“避難しなければ”と思った	「避難しよう」と家族に言った	家族とのやりとりの様子
○	○	お父さんは心配しながらテレビをずっと見ていた。わたしは「逃げなくていいの？逃げたほうがいいって！！ねえ、逃げようよ！！」とおろおろしながらしつこく言った。でもお父さんは「大丈夫！」と言った。そのときお母さんが急いで仕事から帰ってきた。お母さんは少し心配して、お父さんに「大丈夫？」と聞いていた。わたしもまた「逃げよう！」と言ったけど、結果は「大丈夫！！」と言って逃げなかった。
○	○	テレビで避難してくださいと言っていたので、ぼくは「避難しよう」と言った。お父さんは「 ここまでは来ないから大丈夫 」と言っていた。
○	○	「逃げなくていいの？」って聞いたら、お母さんに「 来ないから寝ろ 」と言われた。みんなテレビで津波の情報を見ていた。
○	○	わたしは「避難しないの？」と言ったが、お父さんに「 大丈夫だ 」って言われた。お母さんは懐中電灯とかをバッグに入れていた。妹はこわがっていて、ペット(ねこ)はドアに向かって鳴いていた。
○	○	わたしが「逃げなくてもいいの？」とお母さんに聞いたら「 大丈夫 」と言っていたので避難しなかった。お父さんは市役所で働いているので、その日の21時前に出かけて行き、25時過ぎに帰ってきた。
○	○	ぼくはげに金を見て笑っていた。おばあちゃんたちは「 注意報だから大丈夫だ 」と言っていた。みんな結婚式に行く話をしていました。
○	○	お父さんは「 大丈夫 」と言っていた。兄ちゃんはゲームをしていた。
○	○	お父さんは「 ここは大丈夫だよ 」と言って、お母さんも「 大丈夫だからね 」と言っていました。ぼくは、テレビで聞いていました。
○	○	テレビをつけて津波の情報を見て、お父さんは「 大丈夫だ 」と言って避難しなかった。そのあと、津波の状況の中継のテレビをかえて、お父さんがサッカーを見ていた。
○	○	家族でテレビを見ていた。お父さんは「 大丈夫だ 」と言った。お母さんは「大丈夫」と言った。
○	○	母は「 津波は釜石には来ない 」と言っていた。わたしはテレビを見ていました。
○	○	お母さんとお父さんが「 避難しなくても大丈夫 」と言った。皆でテレビの避難情報を見ていた。
○	○	お母さんは「 逃げなくてもいい 」と言われた。
○	○	お母さんとテレビを見ていたけど、「 避難しなくても大丈夫 」と言っていた。
○	○	お父さんとかお母さんが「 避難しなくても大丈夫だよ 」と言ったので、避難しませんでした。
○	○	「 ここは津波が来ることはないので、避難しなくてもよい 」とお父さんが言っていました。
○	○	おばあちゃんが「 津波はこないから大丈夫 」と言ったから、わたしは避難しなかった。お母さんも電話で「 大丈夫 」と言った。
○	○	ニュース(津波情報)を見ながら、「 こっちは来ないよ。こっちまできたら唐丹町全滅だよ 」とおばあちゃんが言った。
○	○	お母さんが「 大丈夫 」と言ったので避難しなかった
○	○	お母さんは「 大丈夫だから 」と言った。
○	○	お母さんは「 大丈夫だ 」と言っていた。
○	○	お父さんが「 ここまで来ない 」と言っていた。
○	○	お姉ちゃんは「 避難しなくてもここまでは来ねえべ 」と言った。
○	○	お母さんが「 大丈夫だよ、前にもこんないっばいあったから 」と言っていた。私はすごくこわかった。
○	○	ぼくが「避難した方がいいんじゃない？」と言ったのに、お母さんは「 避難しなくていいから 」と言ったので避難しなかった。
○	○	母から電話がかかってきて、「 ここまで来たら釜石全滅だから 」と言っていた。
○	○	「 避難勧告ではなくて避難指示だから大丈夫 」と言っていた。「大丈夫なんだ」と思った。

“避難しなければ”と思った	「避難しよう」と家族に言った	家族とのやりとりの様子
○	○	お父さんは「 水が引いたら、避難しよう 」と言った。私は一応暖かい服に着替えていた。私は心配していました。
○	○	お母さんに「 津波とか来たら教えるから寝てなさい 」と言われた。
○	○	「 1回目では津波はこっちまで来ない 」とお父さんが言って、「 次になったら避難しないといけない 」と言っていた。
○	○	お母さんは、「 いっばい人が避難し始めたら避難しよう 」と言っていた。お母さんが帰ってくるまでは、ガスを消して安全にしていた。
○	○	「 津波が来ても10cmくらいだから大丈夫だ 」と思っていた。お父さんは「 もうちょっと様子を見よう 」と言っていた。お母さんは外出していた。
○	○	お父さんが「 もう少し情報を聞いてから行動しよう 」と言った。
○	○	ぼくは「避難しよう」思ったけど、お母さんが「 テレビの情報を見て決めよう 」と言いました。
○	○	みんなでご飯を食べていて、「津波が来るから逃げようよ」と言ったら、 みんなにバカにされて津波防災学のことを言ったらもっとバカにされた。
○	○	「避難しよう」と言ったけど、 怒られた。 でも寝ると怒られ布団に入ったけど起きていた。
○	○	“避難したい”と思った。
○	○	私は“避難しよう”と思ったけど、テレビで津波のこのニュースを見ていて、避難しませんでした。
○	○	わたしは「津波が身近に来たのでこわい」と思った。
○	○	みんなでテレビのニュースを見ていた。わたしは“本当に避難しなくていいのかわ？”と思った。
○	○	みんなはテレビに夢中になっていた。でも私は少し体が震えていてちよつこわかった。
○	○	“大丈夫か？”と思った。
○	○	お父さんは釜石小に出動した。でも帰ってきた。お母さんは私に「 早く寝なさい 」と言った。私は「津波が来るかもしれないのか。避難しなくていいのかわ？”と思った。
○	○	お母さんは市役所に勤めているお父さんの妹に連絡をして、「避難しなきゃいけない？」というようなことを聞いていた。私はいつでも避難できるように用意はして、テレビを見ながら、「 避難するのかわ、外寒いからいやだな 」と考えていた。お姉ちゃんは落ち着きがなかった。
○	○	私はびびりした。お母さんはお風呂に入っていた。私は、「 千島列島から、なんで釜石まで来たのかわ？” 」と思った。
○	○	「えっ、津波、早く避難しなきゃ」
○	○	「お母さん、津波の心配あるって。逃げようよ！早くー！」
○	○	ぼくは「避難した方がいいのかな？」と聞いたら、お父さんは「まだ時間があるから早く風呂に入ろう」と言って、風呂に入ってテレビを20分くらい見て寝た。
○	○	家族みんなでニュースを見ていて、わたしは「避難するの？」と聞いてみると、あんまり津波が小さかったので避難をしなかった。
○	○	ぼくはお母さんに「避難しなくていいの？」と言った。
○	○	逃げる準備をしてテレビを見ていた。(ニュース)学校で勉強したのを思い出して家族の人と話した。
○	○	お母さんはお風呂に入っていた。寝るときにリュックにお菓子と通帳と財布を入れて、枕元において、「津波が来たら、起こしてね」と言って寝た。
○	○	「大丈夫なの」
○	○	「避難するの？」
○	○	「避難した方がいいかな？」

“避難しなければ”と思った	「避難しよう」と家族に言った	家族とのやりとりの様子
○	○	「避難しなくていいの」「しないだったら遊びましょ」
○	○	お母さんが「クルマ、大丈夫かなあ」と心配していたし、お母さんの友達から電話して避難するか、相談していた。
○	○	テレビを見ていた。
○	○	みんな、コタツに入ってテレビを見ていた。
○	○	普通にテレビで情報を見ていた。
○	○	皆でニュースを見ていた。
○	○	警報が出たので、お父さんは消防の仕事で、お母さんはお送り迎え。下の方に住んでいる人が家に避難してきた。
○	○	部屋でテレビを見ながらゲームをしていた。
○	○	お父さんは仕事をしていた。わたしと妹とお母さんはテレビを見ていた。祖父・祖母は神社に避難したが寒かったから帰ってきた。
	○	「岩手県の方は 50～60cm の津波だから大丈夫」
	○	私は津波が 2m くらいだと聞いて、「2m くらいなら大丈夫」と家族が言っていた。でも、お父さんとおばあちゃんはかなきり声で大あわてしていた。(50cm と勘違い?)
	○	「家は山の方にあるから大丈夫だ」と言っていた。
	○	お母さんは「避難しなくていいよ」と言った。
	○	ぼくは「避難しないの?」と言ったけど、「来ないから大丈夫だよ」と言われて避難しなかった。
	○	お父さんは「ここまで来ない」と言っていた。
	○	わたしは「避難しなくてもいいの?」とお母さんに言いました。お父さんは「大丈夫だよ」と言いました。
	○	私が「避難しなくていいの?」と聞くと、お母さんに「避難警報だから大丈夫。別に避難しなくてもいいよ」と言われた。
	○	“家までは来ないから大丈夫だ”と思った。自分は「本当に大丈夫?」と言った。
	○	わたしは避難しようとは思わなかったけど、一応避難するかどうかを聞いた。
	○	ぼくは「津波だ」と思った。
	○	ぼくは“うちの近くの山に逃げよう”と思った。
○		わたしは“避難しよう”と思ったけど、「少ししか来ない」とお父さんが言っていた。
○		ぼくは“避難しよう”と思ったけど、高い津波じゃなかったので避難しなかった。お母さんは「高い津波じゃないから避難しなくていいよ」と言っていた。
○		ぼくとおばあちゃんは、津波が来ないか心配していたけど、お父さんは、「50cm と言っていたから大丈夫だ」と言って、心配する様子はなかった。確かに 50cm とは言っていたけど、ぼくは避難する準備までして寝た。
○		お母さんが「0.5m だからいい」と言ったから、「避難しなくていい」と思った。お父さんが「注意報だからなあ」と言ったから、「避難しなくていい」とまた思った。
○		家族全員が「うちが津波避難所だから大丈夫」と言っていた。何人か、家の山に避難してきた人がいた。わたしと姉はちょっと不安だった。結構普通に過ごしていた。
○		お母さんは、「今はくズボンを準備しなさい」と言っていた。おばあちゃんには「こっちは来ないから」と言っていた。「わたしの家が建てられる前の津波は家まで来ていた」とひいおばあちゃんが言っていたので、大丈夫か心配だった。お兄ちゃんはおわてていた。
○		親は「家まで来ないから大丈夫だ」と言っていた。「ぼくは大丈夫かなあ」と思った。

“避難しなければ”と思った	「避難しよう」と家族に言った	家族とのやりとりの様子
○		わたしは“大丈夫かな”と思った。お父さんとお母さんは「大丈夫」と言っていた。
○		お母さんは「大丈夫、大丈夫」と言っていた。私は“こわい”と思った。おじいちゃんとおばあちゃんは二階で寝ていた。妹と姉も私と同じように「こわい」と言っていた。その時はテレビを見ながら、電気を消し、ふとんに入っていた。
○		「ここ安全だから」 とお母さんは言っていた。
○		お父さんは 「注意報だから大丈夫」 と言っていた。
○		お母さんは皿洗いをしていて、その後TVを見ていた。お兄ちゃんはゲームをしていた。おじいちゃんとおばあちゃんはテレビを見ていた。お父さんもテレビを見ていた。みんな大丈夫と言っていた。
○		お母さんは「ここまで来ない」と言っていた。
○		「ここまで来ないし、テレビで避難情報とか見ればいいんじゃない?」 とお母さんが言っていた。
○		お母さんは「ここまで来ないから大丈夫」と言っていた。そして、ぼくは“大丈夫かな?”と思った。
○		ごはんを食べながら、テレビを見ていた。お父さん、お母さんは、「こわいねえ」と言っていました。私が「避難しないの?」と言ったら、「しないよ」と言っていました。
○		お母さんが「大丈夫」と言った。
○		お父さんは消防団だが、「大丈夫」と言っていたので、避難しなかった。
○		お父さんもお母さんもぼくも “来ない” と思った。パレーに夢中になっていた。40cm だから大丈夫。弟はこわがっていた。“北海道は終わった”と思った。
○		お父さんは「大丈夫だ」と言って、お母さんも言って、ぼくもそう思った。
○		ぼくは“避難した方がいいのかな”と思ったけど、「やっぱりここまで来ないな」と思いました。
○		ぼくは家が避難場所よりも高台にあるので、「避難しなくていい」と思った。
○		「早く避難しないと」思った。
○		私は“なんで津波が来るのか?”と思った。少しだけこわかった。お母さんは「大きい津波じゃなくて良かった」と言っていた。
○		わたしは“避難しなくていいのかなあ・・・”と少し思った。
○		お父さんとお母さんは落ち着いていた。ぼくはゲームをしていたが、ちょっとこわかった。
○		ぼくとお母さんはテレビを見ていた。テレビで津波の情報を見てビックリした。お父さんは仕事に行っていた。ちょっと心配になった。
○		お母さんはテレビを見ていた。お父さんは寝ていて、私は“避難しなくていいのかな?”と思った。
○		お母さんは、服をたたんでいた。ぼくは、情報を聞いてから、“こわいな”と思った。
○		お母さんとおばあちゃんは茶碗を洗っていた。おじいちゃんはテレビを見ていた。わたしはみんなに「本当に大丈夫?」と言っていた。
○		お父さんはTVを見ていた。お母さんはTVを見ていた。弟は寝ていた。
○		お母さんが「逃げる準備をしておいて」と言った。テレビをニュースにかえて、津波の情報をみんなで見ていた。おばあちゃんやおじいちゃんも逃げる準備をしていた。わたしが「逃げなくていいの?」と言ったら、お母さんが「もう少し様子を見てから」と言った。お父さんはまだ仕事をしているので家にはいなかった。
○		ぼくは父さんの指示を待っていた。あとテレビで津波注意報のニュースを見ていた。
○		お父さんは外に歩きに行った。私はテレビを見ていた。
○		みんなで一緒にテレビを見ていた。
○		テレビを見て状況をみていた。

“避難しなければ”と思った	「避難しよう」と家族に言った	家族とのやりとりの様子
○		お母さんは「津波が来るかもしれない」と言ってテレビを見ていた。わたしもずっとテレビを見ていた。
○		お父さんは新聞を見ていた。お母さんは食器を洗っていた。お兄ちゃんは勉強をしていた。わたしはテレビを見ながら勉強をしていた。
○		わたしは飼犬を家の中へ入れてずっと寝付かせていた。母と兄はテレビを見ていた。祖母は別の部屋でテレビを見ていた。祖父は風呂。
○		お父さんは何度もテレビを見ていて、「近頃は危ない」と言っていた。
○		ぼくはお友達と遊んでいました。
○		みんなでごはんを食べていた。その次に、ニュースを見ていた。
○		津波が来て、避難するときに着る温かい服を用意していた。
○		みんなで「避難しなくても大丈夫かな」と話していた。
○		ぼくはお母さんに「大丈夫？」と言いました。
		「50cmだから大丈夫だよ」とみんな言っていた。
		お母さんは「 大丈夫 」と言っていた。お父さんは「 どうせ小さい津波だから大丈夫 」と言っていた。ぼくはゲームに夢中になっていて気にもしなかった。
		お母さんはご飯を作っていた。ぼくは「 小さいから大丈夫だ 」と思った。お父さんは「 小さいから大丈夫だ 」と言っていた。
		お父さんやお母さんが「 津波の高さがそんなに高くない 」と言っていたので、避難しなかった。それに「 注意報だったので、大丈夫だろう 」と思ったので、避難しなかった。
		お父さんもお母さんも最初津波が来ると知った時はビックリしていたけど、津波の高さを知ったら「 避難しなくてもいいんだ 」と言っていた。
		「津波の避難場所が家より下なので、避難しない方がいい。」とお父さんが言った。ぼくもそう思った。
		私は「山の近くだから大丈夫」と言った。お母さんもおばあちゃんもそう言っていた。
		お父さんは「うちは高いから避難しなくていい」と言った。お母さんもお父さんと同じことを言った。
		「うちは高い所だから、避難しなくていい」とお母さんもお父さんも言っていたので、私は「大丈夫だ」と思いました。
		お父さんは「逃げなくても、うちは高いところだから大丈夫」と言っていた。お母さんは寝ていた。私は「逃げなくても大丈夫だ」と思いました。
		“本当に津波が日向まで来るのだろうか？”とわたしは思った。親は「 このくらいの高さがこっちまで来るわけない! 」と言っていた。「 来たとしてもそんなに困ることはない 」とわたしも思った。
		お母さんが「家は山の方にあるから別に避難しなくていい」と言っていた。私はお母さんがそう言ったから納得して普通にすごしていた。
		お母さんは「家が山側であって、高台だから避難しなくていい」と言ったので、私は「そっか」と言って、普通にテレビを見ていた。
		私の家は高いビルなので、それ以上に高い津波が来たら、どうしようなどと話し合ったことがありました。
		「家が高いところにあるので、安心して大丈夫」と言われて、テレビでニュースを見ていた。
		みんなが「家は高い所にあるから波は来ない」と言っていた。
		お父さんが「津波避難場所より高いと所に住んでいるから大丈夫」と言っていた。お母さんに「心配しないで寝なさい」と言われた。
		私は「家が高い所にあるから大丈夫」と思いました。
		お父さんが「家は高台にあるから大丈夫」と言っていました。

“避難しなければ”と思った	「避難しよう」と家族に言った	家族とのやりとりの様子
		「家は高い所にあるから大丈夫」とお父さんとお母さんに言われ、普通に過ごしていた。
		「避難場所より高い場所だから避難しなくていい」と言っていた。
		“わたしの家は高いから避難をしなくても大丈夫だ”と思った。お父さんとお母さんは「心配しなくても大丈夫」と言いました。
		お父さんもお母さんも仕事に行っていたけれど、お姉ちゃんが「 避難しなくても大丈夫だよ 」と言って、ぼくも「 別に避難しなくていい 」と思った。
		お父さんは「 津波は来ない 」と言っていた。わたしは「 大丈夫だ 」と思った。
		お兄ちゃんが情報を聞いたあと、「 家にも大丈夫 」と言ったので、私は「 大丈夫 」と思いました。
		「津波は来ないから大丈夫」 とお父さんとお母さんが言っていた。ぼくも「 大丈夫だ 」と思った。
		お母さんとお姉ちゃんが「 避難しなくても大丈夫だからね 」と言っていた。お母さんが避難場所の鍵を持って出かけた。
		私は「避難しなくていいの？」とお母さんに言った。お母さんは「 注意報だから大丈夫だよ 」と言った。お父さんはたばこをすっていた。弟はテレビを見ていた。
		母が「 どうせ津波なんか来ない 」と言ったので、他の番組を見ていた。
		「津波だって」とぼくが言ったら、「 津波はここまで来ないよ 」と言うので、マンガを読んでいた。
		お父さんが「 津波は来ないから 」と言っていた。
		「ここまで絶対こない 」と言っていた。
		お父さんが「 来ないから 」と言っていた。
		お父さんが「 ここまで津波は来ないので、避難しなくていい 」と言っていた。
		ぼくは「 別に 50cm だから大丈夫 」と思った。
		そんなに高くなかったから避難しようと思わなかった。
		お父さんが「津波が来そうだ」と言っていました。ぼくは「 小さい津波しか来ていないなあ 」と思った。
		自分の家は山の方にあるからみんな大丈夫だと思っていた。お母さんは寝ていた。自分はごはんを食べていた。おじいちゃんは警報を見ていた。誰も動く気配はなかった。
		ぼくは「山の奥の高い所に家があるので、川を流されるだけで家まで水は来ない」と思った。お父さんは消防で出かけていった。
		そのままTVを見ていた。“高台だったので逃げなくていい”と思った。父とかいにも何も言わなかった。
		“家が高いところにあるから大丈夫だ”と思った。みんなで津波についてのニュースを見ていた。
		祖父母の家でテレビを見ていた。注意報だから気にはしていたけど、家が高台だから心配はしなかった。
		自分の家は山の近くなので、安全だから逃げなかった。
		“家は高いところにあるから、避難しなくていい”と思った。
		津波がよほど大きくなければ来ないところに住んでいるので、安心してた。
		弟とわたしは「大丈夫、ここは高いから」と言っていた。“みんな大丈夫かな？”と思った。
		ぼくの家は高いところにあるので、避難をしなかった。
		私は“ここまで津波は来ない”と思った。お母さんは「避難する人は大変だね」と言っていた。
		ぼくは「 絶対来ない 」と思っていた。お兄ちゃんは「来るはずないだろうな」とか言っていたような気がする。家族全員が何の反応もしていなかった。
		“自分の家に津波は来ない” と思った。
		わたしは「 来ない 」と思った。

“避難しなければ”と思った	「避難しよう」と家族に言った	家族とのやりとりの様子
		“どうせ津波は来ないでしょ”と私は思っていた。妹は「避難しなきゃいけないの?」と言っていた。
		家が海の近くだけど、大丈夫だと思った。みんなテレビのバレーなど見ていて、テレビがよく見えなかったけど、ちょっと大変だと思った。
		お母さんはパソコンをしていて、私はテレビを見ていて、妹が「この音いやだ」と言っていました。でも、私は “大丈夫だ” と 思 って、テレビを見たあと、妹と遊んでいました。
		お父さんは津波のことをパソコンで調べていた。お母さんは洗濯物を干していた。ぼくは “避難しなくてもいいや” と 思 った。
		ぼくは “避難しなくてもよい” と 思 った。お母さんは皿洗いをしていた。お父さんはテレビを見ていた。お兄ちゃんはテレビを見ていた。
		お父さんに「おばあちゃんの家に電話してみろ」と言われたから、ぼくがおばあちゃんの家に電話をした。その後は普通にテレビを見ていた。
		「絶対ここには来ないだろう」
		お父さんが「津波が来ないかな」と言っていた。
		お母さんが「 波が引くから絶対来ない 」と言っていた。
		お母さんは「津波だってー」と言っていた。
		お父さんは「地震があったよ」と言っていた。
		ぼくは“大丈夫かな”と 思 った。父母はテレビをすぐニュースにかえた。母は「近いから大丈夫かな」と言っていた。
		テレビの情報を家の人と見ていた。
		みんなで集まって、テレビの情報を見ていた。
		テレビを見ていた。
		お父さんは、消防で水門を閉めに行っていた。お母さんはまだ仕事だった。家にはわたしとお兄ちゃんの二人でテレビを見ていた。
		お父さんは消防で急いで水門に行った。お母さんは外を見ていた。わたしはお母さんと一緒に外を見たり、テレビを見たりしていた。「津波だって」と言っていた。
		外出して帰ってきて布団を引いて寝た。
		ぼくは寝ていたのでわからなかった。
		ぼくは“はねトビが面白いなあ”と 思 った。お父さんは仕事に行っていた。姉さんはバレーを見ていた。母さんはイスに座っていた。ぼくは“〇〇くんと〇〇くんと〇〇くんと〇〇くんは大丈夫かなあ”と 思 った。
		お父さんは消防士だから川や海の様子を見に行った。お母さんとお兄ちゃんは無反応だった。おじいちゃんとおばあちゃんは電話してきた。
		兄ちゃんとぼくはテレビを見ていた。お母さんと妹もテレビを見ていた。
		お父さんが消防署に行った。
		みんなで相談していた。
		お母さんは仕事に行っていた。私はおばあちゃんの家に泊まっていた、布団に横になっていました。
		私が寝る支度をしているときに、テレビで放送されていたけど、一応、枕を頭の上において寝るようにしました。
		お母さんは夕ご飯の片付けをしていた。
		私の家は山の方にあるから、家族の人は寝たりテレビを見たりしていた。
		お父さんは寝ていた。お母さんはパソコンをしていた。お兄ちゃんはゲームをしていた私はテレビを見ながら、ゲームをしていた。

“避難しなければ”と思った	「避難しよう」と家族に言った	家族とのやりとりの様子
		大槌の方へ出かけていた。会社の車などを動かしたり、危なくないようにした。
		私はお父さん達に「避難しなくていいの?」と言った。お姉ちゃんや妹とは「みんな、避難してるのかなあ?」と話していた。
		親が仕事でいなくて兄弟だけだったけど、そこまであわてなかった。
		わたしは避難しなければいけないのかな? (反省中)“例え高地にあるとしても、注意しなければ!”と 思 った。
		ぼくは「津波か」と 思 いました。
		私は、“自宅がビルなので、家にいた方が安全だ”と 思 った。
		ぼくは津波が来たとき“別に大丈夫だ”と 思 った。
		“友達は大丈夫かなあ”と 思 った。
		ぼくは“へえ、津波が来るんだあ”と 思 った。
		ぼくは“大丈夫かなあ?”と 思 った。
		ぼくはこわいな と 思
		“うちまで津波が来ないから、大丈夫だ”と 思 った。
		みんなが「避難しなくても大丈夫だ」と言っていた。わたしは“波の高さが低いので大丈夫だ”と 思 った。
○		何も言わなかった。
○		何も言わなかった。
○		別に誰も避難しようとしなかった。
○		情報は聞こえなかったし、気にしていなかった。
○		なし
○		覚えていない
○		覚えていない
		お母さんは洗濯物をほしたりして、ぼくは本を読んでいて、何も考えていなかった。
		ぼくは何とも思わなかったし、避難しようとはほとんど思わなかった。
		ぼくは全く知らなかった。お父さんお母さんは違う番組を見ていた。
		わたしはお風呂に入っていたので知らなかった。
		知らなかった。
		ぼくは気づか な かった。
		寝ていたので、わから な かった。
		何も言 わ なかった。
		変わ な かった。
		何もして い なかった。
		何も し なかった。
		何も し なかった。
		何も し なかった。
		覚えて い ない。
		忘れ ま した。
		外出中 だ った。

■避難した児童について

学校	(1) 避難開始時刻	(2) 家族一緒に避難したか	(3) 避難手段	(4) 避難場所	(5) 「避難しよう」と言い出した人	(6) 情報を聞いてから避難するまでの状況
A 小学校	忘れた	全員一緒だった	自動車	指定避難場所	○自分 ○兄弟・姉妹 ○父母 ×祖父母	カバンに道具を入れて寒いので、クルマで近くの高台へ逃げた。
	20:56	全員一緒ではなかった	徒歩・自転車	指定避難場所	○自分 ×兄弟・姉妹 ×父母 ×祖父母	ばあちゃんが「2回目のサイレンが鳴ったら逃げよう」と言った。 お父さんは「逃げなくてもいい」と言った。 でもお母さんはもう逃げる準備をしていた。 兄貴は「勉強するから」と言って逃げなかった。
	忘れた	全員一緒だった	自動車	指定避難場所	○自分 ○兄弟・姉妹 ○父母 ×祖父母	お母さんはニュースを見ていた。 わたしは「大丈夫かな?」と思った。
	20:45	全員一緒ではなかった	自動車	その他	○自分 ○兄弟・姉妹 ○父母 ○祖父母	みんな津波の経験があるので普通だった。
B 小学校	20:41	全員一緒だった	自動車	近所の高台	○自分 ○兄弟・姉妹 ○父母 ×祖父母	「すぐに避難強しよう」と言って、みんなで逃げた。
	21:10	全員一緒だった	自動車	指定避難場所	○自分 ×兄弟・姉妹 ×父母 ×祖父母	ぼくが「避難しよう」と言っても、お母さんとおばあちゃんは「50cmだから大丈夫、来ないから」などと言った。でも、ぼくは何度も避難しようと言っただけで、避難することになった。おばあちゃんとお母さんと弟が行く準備をしている時に、ぼくが早く準備を早くして避難する道具(食料・ラジオ・望遠鏡など)をそろえて、自動車(ラジオが聞ける)で避難した。(お父さんはいなくて、おじいちゃんは仕事で県外に行っていた)
	21:35	全員一緒ではなかった	徒歩・自転車	親戚・知人の家	×自分 ○兄弟・姉妹 ○父母 ×祖父母	忘れた。